

事前質問・意見一覧表

2. 地域経済の再興

(1) 水産業の再興

● 質問

No.	内容	担当課
1	<p>施策シート：P1 参考指標の動向</p> <p>・八戸港水揚げ高が平成22年から漸減しているように見受けられます。また、「市民アンケートにおける現状評価」では農水産業の環境への評価はやや低い評価となっています。要因分析と長期的展望の提示をお願いします。</p> <p>【回答欄】</p> <p>八戸港の水揚げ高については、南米ペルーのアメリカオオアカイカの操業が規制強化により平成23年までで終了し、平成28年にはニュージーランドのスルメイカ漁も規制強化により操業が許可されず、それまで八戸の主力であった海外イカ漁が事実上無くなりました。</p> <p>また、八戸港の水揚げの大部分を占めるサバについては、八戸沖での漁場形成の期間が短期化したことや、漁期中の台風接近や時化の長期化により休漁が相次ぐなど、年毎の水揚げ量の変動幅が大きくなっております。</p> <p>さらに、スルメイカについては、昨年は記録的な不漁となりました。要因としては、平成22年頃からスルメイカの産卵場となる東シナ海において産卵期に海水温が非常に低くなり、資源加入量が少なくなったことや、回遊期の6月から11月頃まで沿岸の水温が高めに推移したため漁場の形成が充分でなかったことなどが挙げられております。</p> <p>今漁期の見込みについては、スルメイカは今季も生息・産卵に適した環境状況への改善が見られないこともあり、大幅な回復は見込まれないと伺っております。また、サバは、国の研究機関の試算では資源量がここ数年は増加傾向にあり、海況の影響により操業日数等は変動しますが、水揚げ量は例年並みとなると予測されております。</p>	水産事務所
2	<p>施策シート：P7 No.25</p> <p>水産業復興ビジョンの策定・推進</p> <p>・減少する漁獲量について養殖事業の可能性や、魚の生態調査、気象などに関連した魚の生態についての情報収集等が必要と思われます。青森県の水産事務所や水産総合研究所、内水面研究所等との連携が有効と思われますが状況や見通しについてお教えてください。</p> <p>【回答欄】</p> <p>現在、県を中心として、市、水産関係団体が連携して八戸における養殖事業の検証が進められております。</p>	水産事務所

No.	内 容	担当課
3	<p>施策シート：P9 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業においては作る漁業も視野におくべきであると考えます。海面、浅海、内水面それぞれにおいて現状と課題を提示願います。 	水産事務所
	<p>【回答欄】</p> <p>現状については、内水面漁協において河川でのサケ稚魚の放流が行われ、沿岸漁協ではウニやヒラメの種苗放流など、増殖事業として水域の生産力の維持・増大が行われております。</p> <p>課題については、内水面では県内全域に共通して言えることですが、飼育用水の不足や放流後の環境によるへい死が最も大きな課題となっております。</p> <p>海面における課題としては、港湾内で網生簀などを用いた区画漁業（養殖）を行う場合は港湾に関連する法、港湾の外で区画漁業を行う場合は共同漁業権海域となるため、それら関連法の課題があるほか、八戸は馬淵川や新井田川などの一級・二級河川が流れ込む地勢上、塩分濃度の変動が大きいという問題のほか、近年の沿岸域における夏場の高水温などの環境的な問題があります。</p> <p>全国的には海水魚の陸上養殖の研究も進んでおりますが、八戸では飼育用水を確保するための用地の確保、施設整備にかかる初期投資、ランニングコストの軽減が課題となっております。</p>	

● 意 見

No.	内 容	担当課
4	<p>施策シート：P2 No.1</p> <p>魚市場の災害復旧・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハサップ対応型荷さばき所をフル稼働させ、八戸の水産品の輸出が拡大していくことを期待しています。 	水産事務所
	<p>【回答欄】</p> <p>平成28年8月に生産・流通・加工関係者をメンバーとする荷さばき所A棟稼働率向上検討会を立ち上げ、A棟の稼働を増加させるため、検討を重ね取り組んでおります。</p>	

(2) 農林畜産業の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
5	<p>施策シート：P12 No.8</p> <p>新規就農希望者や農業分野進出企業への総合的な起農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地転売は難しいと聞いているが、新規就農者への農地の斡旋はどのように行われているのか。 	農業経営振興センター
	<p>【回答欄】</p> <p>平成26年度より開始された国の農地中間管理事業の利用等を促進し、新規就農者への農地の斡旋を実施しています。</p>	

No.	内 容	担当課
6	<p>施策シート：P17 No.20 グリーンツーリズムの推進</p> <p>①事業概要に、「受入体制整備のための研修会等の実施」とあるが、具体的にどのような研修を実施したか教えていただきたい。</p> <p>②来園者数の推移を見ると、伸びていない。伸び悩んでいる原因、理由が推測されるようでしたら教えていただきたい。</p> <p>③以前にも同様の質問をしましたが、来園者にアンケートをとっているのか。その内容を検討し改善している点があれば教えていただきたい。</p> <p>【回答欄】</p> <p>①三八地方農業観光振興協議会において、毎年度、グリーンツーリズム受入農家を対象に研修会を執り行っているところです。昨年度は、観光等の分野で著名な講師を招き公演及び意見交換等のプログラムで農家の意識改革を促す研修会を行いました。</p> <p>②観光農園が減少していることに加えて、農家の高齢化及び担い手の減少によるものと推測しています。</p> <p>③アンケート調査を現在実施中です。</p>	農業経営振興センター
7	<p>施策シート：P17 施策を取り巻く課題や論点</p> <p>・農業関係についての施策は順調に施されていると思われます。一方で、畜産や林業についての現状と課題について、どのように捉えているかお教えてください。</p> <p>【回答欄】</p> <p><畜産></p> <p>八戸地域は、気候的条件や交通のインフラ網に加え、八戸港での飼料コンビナートの形成といった強みを生かし、主に養鶏、養豚が発展しています。</p> <p>課題として、「加工等関連施設の立地や消費の拡大」、「飼料需要の増加への対応と、コスト安定化のための八戸地域産（又は国産）の飼料の利用促進」、「高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等の家畜伝染病への対応強化」、「家畜排せつ物の取扱」が課題となっています。</p> <p><林業></p> <p>森林面積は10,140haで市域の33.2%を占めております。森林は水源かん養や自然環境の保全など、多面的機能の役割を果たしておりますが、作業道路がない等条件の悪い森林では整備が行き届いていない状況にあります。</p>	農林畜産課

● 意見

No.	内 容	担当課
8	<p>意見への対応状況：P4 No.12</p> <p>・食の八戸ブランド化は充実しつつあるが、年間を通じた全体的マーケティングが弱いと思う。関連団体、業界と行政が一堂に会し、今後の行事の調整と内外に向けたPR方法などの協議を働きかけてはどうか。</p> <p>【回答欄】 (農業経営振興センター) 農産物については、八戸菓子商工業組合、八戸ワインフェスティバル実行委員会等の代表者で構成される「八戸市農産物ブランド戦略会議」において、八戸市産農産物の販売戦略の検証並びに情報発信手法の検討を実施しています。</p> <p>(水産事務所) 水産物に関しては、品質、数量などで八戸が優位性・独自性を有するイカ・サバのブランド化に取り組んでおりますが、イカについては「イカの街はちのへ連絡協議会」を開催、サバについては「八戸前沖さばブランド推進協議会」に参画し、関連団体、業界の方々とブランド化・PR方法等について協議するとともに、各種イベントの開催、支援を行い、イカ・サバの情報発信に取り組んでおります。</p>	<p>農業経営振興センター</p> <p>水産事務所</p>
9	<p>施策シート：P16 No.19</p> <p>木質ペレット利活用推進事業（再掲）</p> <p>・環境保全、エコロジ的な生活推進の観点から、事業の規模を縮小してでも続けるべきと考える。</p> <p>※灯油価格は変動するものであり、単一年度で判断するものではないと考える。</p> <p>【回答欄】</p> <p>本事業は平成25年度～28年度の4ヵ年実施しており、導入実績は、25年度27件、26年度27件、27年度17件、28年度9件の計80件となっております。事業開始当初に比べ、燃料価格が安定傾向にあり、申請件数が年々減少していることから、事業の必要性が低いという判断をいたしました。</p> <p>しかしながら、低炭素社会づくり推進のためにも、来年度以降、木質ペレット利活用も含めて再生可能エネルギーの利用促進につながる市民向けの支援事業を再度検討して参ります。</p>	<p>環境政策課</p>

(3) 企業活動の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
10	<p>施策シート：P30 No.29</p> <p>新産業団地整備・開発推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新産業団地整備・開発に関わる今後のスケジュールを教えてください。 ・早期の完成を期待しています。 	産業労政課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 現地の測量を行い、施工性、経済性等を勘案し、開発区域などを決定する基本計画を策定します。 ・平成30年度 その結果を基に地権者説明会を開催するほか、産業団地の基本設計を策定します。 ・平成31年度 実施設計を策定するほか、用地買収を実施します。 ・平成32年度～造成・道路工事に着手し、平成35年度から分譲を開始する目標としています。 ・早期の完成に向けて、事業の進捗に努めます。 	

(4) 観光・サービス業の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
11	<p>意見への対応状況：P6 No.19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山車製作用地の決定までのプロセスを教えてください。 ・三社大祭の課題について行政ができる支援、対策を教えてください。 	観光課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独力で山車製作用地を確保することが難しい山車組については、市有地を中心として、諸法令への適合や周辺環境、山車組の地元町内との結びつきなどを考慮しながら、使用できる可能性のある土地について検討します。検討の結果、適地が見つかった場合には、近隣住民の理解が得られるよう、八戸三社大祭関係団体と連携しながら、合意形成を進めて参ります。 ・山車製作場所の問題を含め、山車組や三社大祭関係団体で解決できない課題については、行政が支援する必要があると考えます。祭りを取り巻く諸問題について協議する八戸三社大祭運営委員会企画推進部会などの関係団体と連携しながら、必要な支援を行って参ります。 	
12	<p>施策シート：P31 参考指標の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客数が、震災前の平成22年に比べて、平成28年では1.7倍に急増しています。種々の観光施策が功を奏しているのではと思いますが、増加要因についてどのように把握しているのでしょうか。 	観光課
	<p>【回答欄】</p> <p>平成26年度に実施した八戸観光プロモーション基礎調査によると、「八戸せんべい汁」「いちご煮」「イカ」などの食の観光資源、「蕪島」「種差海岸」など自然の観光資源が高い認知度、興味度を示しており、来訪理由では「おいしい料理・食材を求めて」が最も高い結果となりました。食を提供する場としての「朝市・横丁」、当市を代表する自然資源である「種差海岸」を軸に、地域全体で取り組んでいるおもてなしや県内外へのPR事業が誘客に繋がっているものと考えております。</p>	

No.	内 容	担当課
13	施策シート：P31 参考指標の動向 ・表から見ると宿泊客が増えている現状はうれしいことではあるが、6、7月は宿泊施設が取れずひどい状態だったことは、まちの駅への問い合わせからも感じた。今の八戸の宿泊施設の状況を知りたい。	観光課
	【回答欄】 八戸市内の宿泊施設は全59施設であり、部屋数は3,337部屋となっております。そのうち18ホテルがホテル協議会会員となっており、市が当協議会から毎月報告を受けておりますが、今年6月の部屋の稼働率は80.4%となっております。	

● 意 見

No.	内 容	担当課
14	施策シート：P34 No.18 各種コンベンションの誘致 ・各種コンベンションの誘致は直接的な経済効果のみならず、八戸をアピールする効果も大きいと思われます。 ・誘致実績を上げていくためには積極的な誘致活動とともに、助成などの支援策をさらに充実させる必要があると思ひます。	観光課
	【回答欄】 市では、(公社)八戸観光コンベンション協会が実施する小規模コンベンション開催助成事業をはじめとしたコンベンション誘致・開催支援事業費の一部を助成し、コンベンション誘致促進を図っております。 コンベンション誘致は、様々な経済波及効果が期待できることから、引き続き、八戸観光コンベンション協会への支援を行うとともに、関係団体と連携を図りながら、各種コンベンションの誘致に努めて参ります。	

(5) 風評被害の防止

● 質 問

No.	内 容	担当課
15	<p>施策シート：P42 施策を取り巻く課題や論点</p> <p>・風評被害は正確な事実や正確な情報を伝えていない噂が広まったことで、被害を蒙ったと考えられるときに使用されます。国内外の風評について状況をお知らせください。</p>	<p>農林畜産課</p> <p>農業経営振興センター</p> <p>水産事務所</p>
	<p>【回答欄】</p> <p>(農林畜産課)</p> <p>畜産では、生産額や飼養頭数の状況から判断する限り、国内での風評（国内畜産物）に変化はないと思われます。また、海外の日本産の輸入規制は緩和が進んでおり、検査証明書など条件付で可能な状況にあります。</p> <p>(農業経営振興センター)</p> <p>国内においては、依然として福島県産の農産物において風評被害があると伺っています。また、国外においては福島県産の農産物の輸入規制措置が行われていましたが、一部の国の規制が緩和されている状況です。</p> <p>(水産事務所)</p> <p>水産物に関する風評被害について、八戸水産加工業協同組合連合会を通して、市内の加工場10社にヒアリングした結果、概ね、風評被害はないとの回答を得ております。ただし、現在も、取引先によっては、産地証明書、放射能検査書等の提出を求められる場合もあるとのことです。</p> <p>各国の輸入規制に関しましては、品目（マダラ）の輸入禁止措置をとっている国は、韓国のみです。</p> <p>他の水産物に関しましては、アジア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパの各国からは、政府作成の放射性物質検査証明書を要求されている状況です。</p>	

その他

● 質 問

No.	内 容	担当課
16	<p>Wi-Fi端末設置について</p> <p>・北海道新幹線開業や外国クルーズ客船の増加に伴い、インバウンド環境整備が進んでいると思いますが、認証方式も含め（簡易に利用可能な方法）現状設置状況を分かる範囲でお答えください。</p>	<p>観光課</p>
	<p>【回答欄】</p> <p>Wi-Fi利用可能施設については、八戸駅において東西自由通路と、はちのへ総合観光プラザに7月31日中に設置予定となっております。八戸港では八戸フェリーターミナルで利用可能となっており、市公共施設では種差海岸休憩所、蕪島休憩所、水産科学館マリメントなどの施設で利用可能となっております。</p> <p>施設の詳細は、八戸市ホームページ「市公共施設での公衆無線LAN(Wi-Fi)サービスについて」で確認できます。</p> <p>利用方法は各施設ごとのSSID・パスワードを設定することで接続可能となっております。</p>	

● 意見

No.	内容	担当課
17	<p>(2) 農林畜産業の再興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農者への総合的な支援体制の充実が、農地利用の最適化につながるよう、農家が抱える現実的な問題を第三者がリサーチ・分析し、地域に合わせた解決に取り組むことが必要である。 <p>【回答欄】</p> <p>認定農業者等の農業経営改善計画については、農業委員、土地改良区職員及びJA八戸職員等で構成される第三者機関において、課題解決に向けた検討を行っています。</p> <p>また、地域ごとに、農業経営体が集まり、座談会を開催しており、地域が一体となったサポート体制が構築されています。</p>	農業経営振興センター

3. 都市基盤の再建

(1) 市街地の整備

● 質問

No.	内容	担当課
18	施策シート：P1 参考指標の動向 ・復興道路については、その付近を通るたびに順調に進んでいる感を持っています。現状でいつ頃全線開通の見込みなのかを含め簡単なマイルストーンを教えてください。	道路建設課
	【回答欄】 国では、復興・創生期間である平成32年度末までの三陸沿岸道路開通をマイルストーンとしています。 現在、全長359kmのうち、170kmは開通済みです。しかし、国の公表では、全体の9割にあたる321km分の平成32年度開通見通しが示されたまでとなっている状況です。	
19	施策シート：P1 参考指標の動向 ・復興道路（三陸沿岸道路）の全体見通しと、その活用方法、PR方法について教えてください。	道路建設課
	【回答欄】 全長359kmのうち、平成28年度末現在で170kmが開通済みです。全体の9割にあたる321kmについて、平成32年度末までの開通見通しが示されています。 <活用方法> 1 沿線地域の人的・物的交流圏の拡大 2 物流の効率化による地域産業の活性化 3 三陸復興国立公園への観光客の誘引による観光産業の活性化 4 救急患者搬送時間の短縮による救急救命率の向上 5 災害時の緊急避難路・緊急輸送路 <PR方法> 関係機関と連携し、ちらし配布、HP掲載、アンケート調査等のPR活動を行い、今後とも利用促進に向けて取り組んでまいります。	

(2) 港湾の整備

● 質問

No.	内容	担当課
20	施策シート：P7 参考指標の動向 ・八戸港コンテナ貨物取扱量が、平成22年に45,430TEUだったものが、6年後には58,971.8TEUと約1.5倍に増加しています。この進展の要因は何でしょうか。	商工課
	【回答欄】 輸出では、紙が4.4倍、水産品が2.2倍に、輸入ではソーラーパネル等の製造工業品が4.6倍、建築資材等の原木が3.2倍に増加しています。	

● 意見

No.	内容	担当課
21	<p>施策シート：P8 No.8 八戸港の整備 施策シート：P9 No.15</p> <p>【復興】ポートセールスの展開（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 八戸港の更なる発展のためには、防波堤・岸壁等のハード面の着実な整備に加え、コンテナ航路の一段の充実も必要だと思います。りんご等の県産の農水産物の輸出促進のためにも、現在の韓国・中国航路に加え台湾・東南アジア航路の誘致を県・市・民間一体となって推進していく必要があると思います。 	<p>港湾河川課 商工課</p>
	<p>【回答欄】 （港湾河川課）</p> <p>防波堤、航路・泊地等のハード面の整備については、国、県に着実に整備を進めていただいております。今年度は中央第一防波堤、第二防波堤にケーソンを計5函据え付ける予定となっております。</p> <p>市としては、要望活動等を通じて、整備促進について引き続き国、県に働きかけて参りたいと考えております。</p> <p>（商工課）</p> <p>平成24年4月に廃止された東南アジア航路の再開に向け、平成28年7月に台湾船社に対し、県・市・八戸港振興協会・荷主企業の連名による航路開設に関する要望書を提出し、台北市内で開催したレセプションを通じ、現地関係者に広く八戸港をPRしました。これに加え、平成28年度に船会社向けの航路開設補助金を県・市で創設しました。尚、八戸港物流拠点化推進協議会では、県産りんごの台湾向け輸送トライアルを今年度実施予定です。</p>	

(3) 海岸・河川の整備

● 質問

No.	内容	担当課
22	<p>施策シート：P11 参考指標の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、二級河川について堤防・護岸工事等が進んでいます。こうした過程で水害の状況はどのように変化してきているのでしょうか。 	<p>港湾河川課</p>
	<p>【回答欄】</p> <p>震災以降の水害状況については、平成23年9月の台風15号と平成25年9月の台風18号により洪水が発生しており、主に八幡地区と一日市地区において浸水被害を受けております。</p> <p>八幡地区においては平成27年度に堤防が完成し、一日市地区においても国が今年度から河道掘削に着手すると伺っております。</p> <p>近年は全国的に想定以上の降雨による大規模な水害が頻発しており、八戸でも水害が発生する可能性があります。</p> <p>市としては、要望活動等を通じて、改修事業の早期完成について引き続き国、県に働きかけて参りたいと考えております。</p> <p>津波・高潮による被害は震災以降発生していませんが、震災の被害を踏まえ、馬淵川では国が河口部の堤防の嵩上げと津波による堤防の洗掘防止策を講じております。</p> <p>五戸川においても、県が河口部の堤防の嵩上げ工事を実施しております。</p>	

(5) 公共交通の維持・確保

● 質 問

No.	内 容	担当課
23	<p>意見への対応状況：P3 No.10</p> <p>・マチニワが完成した後の、バス利用者を含め道路のマナー違反の横断者への対応策は何か考えているのでしょうか。観光客や車を運転する方などに「八戸の人は、人はとても良いけどマナーがなっていない」と言われている現状を何とかしないといけないと感じている。現実には今の中心街では事故も起きている。</p> <p>【回答欄】</p> <p>マチニワの整備は、中心街の回遊性向上を目的の一つとしており、完成後、はっちとより一体感や連続性を持たせるために、はっち前からマチニワにかけて、横断歩道を設置してはどうか、という意見も頂いております。このことについては、八戸警察署や地元商店街ほか関係者と協議を進めていきたいと考えております。</p>	まちづくり文化推進室
24	<p>意見への対応状況：P4 No.12</p> <p>・企画については確かにたくさんの企画をしているのはまちの駅に届けられるちらしやポスターでよく理解できている。そこで、参加者の現状というか、利用の状況を知りたい。</p> <p>【回答欄】</p> <p>平成28年度においては、10種の日帰り路線バスパックの利用促進を図り、利用状況は計1,354件となっています。</p> <p>中でも好調なものは、十和田市現代美術館バスパック（計462件）で、県外からの観光客が十和田市現代美術館を訪れるにあたり、新幹線で八戸に降りた後、バスパックを利用して足を伸ばす方が増えているものと考えられます。</p>	都市政策課

● 意見

No.	内 容	担当課
25	<p>施策シート：P19 No.3 八戸市地域公共交通網形成計画推進事業 ・公共交通網、バスについて</p> <p>①バス乗務員の接客の向上。平素より路線バスを利用して気づいた点を申し上げます。八戸駅で、観光客がバスに乗るとき、乗務員に行き先（中心街とか泊まるホテル名）と降りるバス停を質問している場面をよく見かけます。親切、丁寧に対応している乗務員もいれば、ぶっきらぼうに対応している乗務員（本人は無意識で悪気はないと思います）もいて、対応にばらつきがあります。八戸に初めて来た方への対応は、このような公共交通機関の方々の対応が八戸の第一印象につながるので、言葉遣い、対応等について、向上するような施策を検討していただきたい。</p> <p>②市内でのイベントのときなど、臨時のバスパックなどを検討していただければと思います。例えば、先日の種差まつりで公共交通機関を利用しようと思いましたが、JR鮫駅でバスに乗り換え、そこから種差へバスが接続しています。それは便利ではありますが、このようなイベントのときは、市内から直通で行けるバスが数本でもあればなお便利と思いました。また、同じく、南郷ジャズ以外のイベントのときは、開催時間等で自家用車でないと行けないことが多く、残念なときがあります。採算性もあると思いますが、そのようなときの直通バスなど検討していただければありがたいと思います。また、もしそれを実施されていたとしたら、私の認識不足です。お許してください。</p> <p>【回答欄】</p> <p>①乗務員の接客向上については、これまで、公共交通アテンダント事業の一環として、アテンダントとバス事業者の連携により、研修会の開催等に取り組んできた経緯がありますが、現在では各事業者が主体となって取組が続けられております。八戸市地域公共交通網形成計画においては、公共交通の改善を図る取組のひとつとして、乗務員等の接客向上を位置づけておりますことから、引き続き事業者と意見交換しながら、効果的な取組を検討してまいります。</p> <p>②イベント時の直通バス（シャトルバス）運行については、基本的にはイベントの主催者側において、来場者数の見込や駐車場の充足状況等を踏まえ、必要に応じ貸切バスを運行委託するなどの対応を取られているものと理解しております。市といたしましては、イベント時に限らず日常的に、自家用車と公共交通機関の適切な使い分けがなされるよう、モビリティマネジメントの取組を通じ、公共交通の利用促進を図ってまいります。</p> <p>なお、バスパックは、既存のバス路線の利用促進を図るため、バス事業者や沿線の施設・店舗等と連携し、路線バスを利用したお出かけの動機づけとなる企画乗車券を商品化するもので、モビリティマネジメントの一環として今後とも取り組んでまいります。</p>	都市政策課
26	<p>施策シート：P19 No.4 八戸圏域公共交通計画推進事業 ・低床バス車両とICカードの導入検討について</p> <p>低床バスは、先頭の席が高く座りにくいという難点があるものの、乗降口が低くて広いという点は、ご高齢者やスーツケースを持った観光客にとって、とても乗降しやすいバスと思います。今後増えるであろう観光客に必要な車両となるので、これからも進めていただきたい。</p> <p>【回答欄】</p> <p>低床バス車両の導入については、御指摘のとりの重要性を認識しており、引き続き事業者と連携し取り組んでまいります。</p>	都市政策課

その他

● 質 問

No.	内 容	担当課
27	<p>・フェリーの航路や船の充実が進んでいるが、公共交通の利用者の利便性向上への取組は。朝や夜の便に合わせたバスは運行しているが、昼の便に合わせての運行はどのようなになっているのか。</p>	都市政策課
	<p>【回答欄】 八戸港から出航するフェリーと接続するシャトルバスは、フェリーを運航する川崎近海汽船株式会社が岩手県北自動車株式会社南部支社に運行委託しているものです。 運行委託上の採算面や、昼のフェリー便はトラックドライバーの利用が多い等の状況を勘案し、シャトルバスは朝と夜の便に接続するよう運行していると伺っております。</p>	

● 意 見

No.	内 容	担当課
28	<p>(1)市街地の整備 ④広域的な道路ネットワークの整備について ・八戸市内は、道路に行き先表示が少なく、あっても小さいなど自動車の運転手に親切ではないとよく聞く。道路の整備に伴い、防災の観点からも分かりやすい行き先表示板の設置をしていただきたい。</p>	道路建設課
	<p>【回答欄】 関係機関と連携しながら、道路整備を推進するとともに、適切でわかりやすい案内標識の設置に努めます。</p>	

その他

● 意 見

No.	内 容	担当課
29	<p>・復興計画が順調に進む中で、中長期的課題である当市の人口減、高齢化対策と労働力の確保等を横断的に整理をし、重点的に議論するべきではないだろうか。</p>	政策推進課
	<p>【回答欄】 当市の目指す創造的復興は、単なる原状復旧にとどまらず、人口の減少、少子高齢化、環境問題、地域コミュニティの振興などの現代社会を取り巻く諸課題にも対応した新たなまちづくりを推進することであります。 その中で当市においては、平成27年10月に八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、第6次八戸市総合計画と連動を図りながら、人口減少の克服と地域社会経済のさらなる活力創出に向けた各施策に取り組んでおります。 今後も、復興計画だけではなく、総合計画や総合戦略と連動しながら一体的に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	